

★インタビュー★

# 北区 学生ボランティア

(平成 30 年 9 月 10 日 飛鳥中学校)

吉澤 奈々絵さん (大学 3 年生) 派遣校：飛鳥中学校・他小学校

今回のボランティアを通して、教員の仕事は相互の協力が不可欠であるということを改めて実感しました。ボランティアの私も、ただ単に見学とお手伝いをするだけの存在ではなく、児童と生徒を指導し、

**バックアップするメンバーの一員** として扱われているということを強く感じます。ボランティアという立場ではありませんが、教育者の一員として参加させていただき以上、少しでも貢献できるよう、今後もより一層頑張りたいです。



## Q. ボランティアを始めたきっかけは？

A. 大学の先生から学生対象のボランティアを実施している地域があると伺い、ホームページで調べて申し込みをしました。

## Q. どんな活動をしているの？

A. 主に算数と数学の授業をサポートしています。塾の講師のアルバイト経験を生かしてボランティア活動を行っています。



## Q. ボランティアの魅力はなに？

A. 大学での、指導法に関する座学での学習に並行してボランティアで実際の教育現場に触れることで、より指導法への理解が深まると思います。

指導法の授業で学んだだけでは、なかなか対処が難しそうな出来事が実際の教育現場では起こります。それに対する、教員の実際の対応を見ることで、**将来自分が働くときのイメージがつかみやすく**、勉強になります。

また、児童や生徒と実際に触れあい、コミュニケーションをとることで、**教員になりたいというモチベーション**がより高まりました。

## Q. ボランティアを始めて感じたことはある？

A. 感じたことは二つあります。

一つ目は、子どもの見えないところに思いのほか多くのお仕事があることです。

小中学生の頃は児童や生徒として先生方の様子を見てきましたが、ボランティアではより先生に近い立場から先生方を見ることが出来ます。例えば、授業準備や、児童や生徒個々の情報の頻繁で細やかな共有など、小中学生の頃では考え付かなかったような準備などが多くあり、勉強になりました。

二つ目は、小学校と中学校では、先生の立ち位置が少し違うということです。

小学校の先生は、児童の年齢に合わせた、より丁寧で細やかな指導と気配りができるように、細心の注意を払っていました。

一方、中学校の先生は、もちろん丁寧で細やかな指導をしていますが、それ以上に、生徒が今後大人として自立していけるように、マナーやルールも含めて教えていけるよう、努力していることがわかりました。

このように、実際に現場を体験してみることで、新たな気づきが得られ、非常に有意義な経験をさせていただいていると感じています。

## Q. 子どもたちの様子はどんな感じ？

A. **中学校では、生徒が元気よく明るく挨拶してくれたのがうれしかったです。** 小学校では、図工で作った制作物をもったり、質問攻めにされたり、よりこちらに興味を持って接してくれています。児童や生徒の学校での時間の全てに寄り添えるわけではありませんが、こういったコミュニケーションを続けていくことで、教育者としての感覚がわずかながら養えるように思います。

まだボランティアとしての期間が短く、そこまで多くの交流をできているわけではありませんが、今後、ボランティア外での授業見学などもさせてもらえる可能性もあるため、より児童、生徒と接する機会が増えていくと思います。それを通して、よりコミュニケーションをとっていければ、学ぶことも多いだろうと考えています。

## Q. 将来はどんな教員になりたい？

A. 中学校での数学の先生を見て、授業の始まり方、流れ、展開などのスムーズさが素晴らしく、参考にできる点がとても多いです。私もその先生のように、スムーズにわかりやすい授業を展開できる先生になりたいです。私は音楽の先生になりたいので教科は違うのですが、スムーズで分かりやすい展開を意識することで、子どもたち全員に音楽に興味を持ってもらえるような授業をしたいです。

また、大学の講義で話していただいたある先生が、「教員という仕事は、子どもの現在の姿だけを見てやるものではなく、子ども一人一人の将来を見据えて指導していくものである」という趣旨のことをおっしゃっていました。私も、可能な限り児童や生徒一人一人と向き合い、それぞれのいいところを尊重して伸ばしつつ、**夢を応援できる先生になりたい**です。

